

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム みさき
(ユニット名)	みさき
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県出水市荘 850-3
記入者名 (管理者)	宮原 玲子
記入日	平成 21 年 5 月 12 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	職員の一方的な介護になっていないか、利用者が本当に満足して頂けているのか常に追求し、理念を掘り下げて話し合うことでより良いサービスがなされるように努めていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	家族や地域の方々にグループホームの理解と協力を得るためにパンフレットにも記載していたが、事業所の果たそうとしていることを具体的に示し、新たに作り直した。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	近所の方がいつでも気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気作りに努めていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域、学校等の活動、行事に参加したことがないので、これから積極的に参加したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材教育の貢献として実習生の受け入れも行うようにしている。	○	地域の方を対象に認知症の理解や接し方などの啓発に努めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善に向けて具体案の実践につなげるために努力し、サービスの質の向上に努めていきたい。	○	自己評価、外部評価を受ける事で何が必要か認識し、これからのサービス向上につなげていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	公民館館長、民生委員、包括支援センター職員、家族会代表の方々に参加してもらい2ヶ月に1度開催し、今後の活動や対策について意見を聞き反映出来るように努めている。	○	サービス向上に向けて意見や対策交換など行っていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	考え方や実態を良く知ってもらい、課題解決のために相談や助言を頂いている	○	運営や現場の実情等を伝える機会を作り共に取り組んでいきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、職員の理解を深めるようにしていきたい。	○	対応が必要と思われる利用者がある場合は職員に説明、アドバイスを行いながら利用者の支援に結びつけていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待、言葉の暴力等がないように勉強会を開き、職員の理解と意識を高めるようにしている。	○	職員は遵守に向けた取り組みを行っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、需要事項説明書は契約の前に渡し、良く読んでもらい不明な点など確認しながら説明をするようにしている。特に個人情報、起こりうるリスク、重度化や看取り、事業所の考え方や取り組みなど説明し同意を得るようにしている。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満、苦情を聞き、スタッフで改善に向けて話し合う。又、思いや意見を上手に表す事が出来ない利用者に対しては表情、態度からその思いに近づけるよう努める。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の来訪時や電話で入居者の方の状況は伝えるようにしている。また、毎月、発行する新聞などでも施設の生活がわかるように努めている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等では意見が出やすいように職員は席をはずし家族同士話し合ってもらい代表より内容を伝えてもらうようにしている。又、訪問時、意見、要望、苦情などないか問いかけたり何でも言えるような雰囲気に努めている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議、勉強会等で意見や提案など聞くようにしている。又、個別に話しを聞いたり、相談しながら反映出来るようにしている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態に合わせて勤務時間を変えたり、職員の急な休みにも対応出来るようにしている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットのため異動もなく、離職者も少ないので継続的に支えられる体制となっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での研修は行われていないが、事業所外での研修には職員が交代で皆が参加出来るようにしている。参加した職員は報告書を書いてもらい全員が閲覧出来るようにしている。又、スタッフ会議の時も発表してもらうようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの研修、見学などさせて頂いたり、又、受け入れも積極的に努めている。グループホーム連絡協議会に加入し講習、研修などにも参加している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスに感じないよう何でも話せる雰囲気作りと体調等については把握するように努めている。	○ 休憩時間はゆっくり休めるようなスペースを確保するように考えていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の努力や実績について把握し、向上心を持てる職場環境に配慮している。また資格取得に向けても奨励している。	○ 就業規則をつくり、働きやすい環境づくりに努めている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に面談を行い、本人の話を良く聴いた上で生活状態を把握し、入所するにあたっての不安や孤独感を取り除き、安心し、楽しみが持てるように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が困っている事、苦勞した事などの経緯を良く聴き、事業所としてどのような対応をしていくのか希望、要望を受け止めながら話し合っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況を確認し改善に向けた支援の提案、相談を行い、必要に応じて他のサービス機関につなげるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得して入所して頂けるよう期間を儲けながら、施設の雰囲気に慣れて頂けるようしている。又、入所後も家族の方などの面会をお願いしたり、外泊や宿泊してもらうなど相談しながら行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いを共感し、理解出来るように常に心がけながら、共に過ごす中で協働し和やかな生活が出来るように配慮している。	○	一方的な介護ではなく人生の先輩であると敬う気持ちを持ちながら、利用者の得意分野や生活の技、知恵など学び支え合え関係を築くようにしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、本人をどのように支えていくべきか家族と協力しながら行っていくよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と一緒に過ごしてもらえるよう行事を計画しお誘いしている。離れた所にいらっしゃる子供さんに対して日頃の報告を兼ねて直接声を聞いて頂けるよう電話したりしている。	○	常に家族とは本人の状態をこまめに報告、相談するようにしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と馴染みのあった方がよく来訪して下さったり、家族の協力を得て訪問して頂いたり交流が持てるように心がけている。	○	馴染みのあった方達に手紙を出すなど継続的交流が持てるように配慮していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が会話が持てるように職員が話しのきっかけを作ったり、気の合う同士や孤立してしまいそうな方への座る位置を配慮している。	○	体の不自由な方への食事用エプロンをかけて下さったり、茶碗を持って食べさせてあげようとされたり、お互いが支え合っている様子がよく観られる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院のため契約が終了した方や他の施設に移られた方に対してお見舞いに行ったりしている。家族の方には遊びに来て頂いたり、行事にはお誘いしたりと継続的なお付き合いが出来るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で全ての方を見て声をかけ、言葉や表情から健康状態や気持ちを感じ取ることができるよう、また、その日気になる方とは特にゆっくり話す時間を持っている。	○	スタッフ全員に、勤務時間の中で必ず全ての方に声をかけ、向き合う時間を持つように指導している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、時には今まで関わりのあったケアマネジャーや施設の方々から情報を得たり、ご家族の了解の元、一緒に自宅までドライブしたりして、これまでの生活ぶりを把握している。	○	ご本人からの情報収集が出来にくい方もあるが、毎日の生活の中で少しずつその人なりを知り、信頼関係を築いていきたいと思います。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	施設としての生活リズムはあるが、それに拘ることなく、一人一人に合った生活リズムを尊重し、起床時間や、食事、入浴についてもその日の状態に合わせて行っている。	○	お一人お一人の生活リズムを理解した上で、その日の心身の状態に合わせて支援していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人の望まれる生活が実現できるように、ご本人やご家族と話し合いを重ねたことを元にして、施設全員と意見交換した上で計画を作成している。	○	ご本人の本当の気持ちが把握できているかどうか、今後も運営者と管理者がお一人お一人に向き合い、話し合う時間を持つようにしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	病状や生活に変化が生じた場合は、ミーティングでその都度話し合い変更計画の予定を立てた上で、必要な場合はご家族にも相談して計画内容を変更している。	○	その都度見直しをしているが、経過を全て記載しているかどうか不十分な面もあるので、今後出来るだけ記録していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のことはケース記録や支援経過に記録し、特記すべきことは昼夜間帯の担当者が日誌や申し送りノートにも記録した上で、口頭でも申し送りをしている。	○	情報の漏れがないように、2重3重のチェック体制を取って確認するようにしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	田園地帯に位置し、明るい開かれたホームを目指して自由に行動できる空間を作り、ゆったりと生活できる雰囲気作りを心掛けている。	○	ご家族や地域の方々が自由に出入りできる施設づくりが出来つつあるように感じられる。
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	施設内にも小さい畑があるが、地域の方の畑も借りて野菜を作っている。ボランティアの方が草取りに来て下さったり、地域の方が遊びに来て下さったりと地域との交流が出来る。また、地域の消防の方々との支援を頂いたり、運営委員会にも公民館長さんや民生委員さんの出席を頂いている。	○	地域の子供達との交流が出来て、運動会などこちらからも出掛けて行き、向こうからも来てもらえるように学校にお願いもしているが、まだ実現に至っていない。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人やご家族、かかりつけ医との相談のもと、往療マッサージや美容師さんの利用をおこなっているが、行きつけの美容院があったりする方については、ご家族の支援により利用していただいている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営委員会に地域包括支援センターの方の出席の際相談に乗って頂いたり、必要に応じて、介護保険課にも相談している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が従来からのかかりつけ医を希望される場合はそのまま、そうでない方についてはご家族に相談し、ご本人にも了解していただいて、施設の協力医に診ていただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>協力医や薬剤師に何でも相談できる体制作りができていますので、不安に思うことや、分からないことは質問して指導を受けています。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>これまでのところは医療機関との連携も上手くいって相談しやすい状況である。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>重度化してきた利用者について、どのようなケアが必要か全員で話し合い方針を定め支援している。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>家庭の事情で退所された方が、充分話し合いをした上で在宅に戻り生活されていたが、状態悪化し老健施設に入所されたことを知り、残念である。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>入院が長引き、退所の可能性が出てきた方についても一応担当のケアマネージャーさんに連絡を取ったりしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	お一人お一人を尊敬していることで、まずと敬いの気持ちが言葉や態度に表れていると思います。介助を受けられる人の気持ちになって、排せつや入浴などの援助を行っています。トイレについてもゆっくり使用できるように各部屋に設置している。また、プライバシーに係る物が他人様の目に触れないように注意しています。	○ 開設以来1年半が過ぎて、お互いに慣れ親しんできた中で、尊敬の気持ちが薄れ押れ過ぎないように注意したい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	一方的な援助にならないように、ご本人の思いを聞く時間を作り、出来るだけ満足のいく生活が出来るように支援します。	○ ご本人のためと思っていることが、介護する側の意見を押し付けるようなことにならないように注意して、支援していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設としての基本的なスケジュールはあるが、あくまでも基本であって、お一人お一人のその日の状態に合わせてゆったりと心急くことなく生活して頂けるように心がけている。	○ これからも、入所者の方本位の支援をしていくように心がけたい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理美容を利用しているが、ご本人の希望により行きつけのお店を利用されている方もいる。お化粧をしたりおしゃれが好きな方もいらっしゃって、限られた衣服の中でも変化のあるおしゃれが出来るように声かけしたりして支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフも同じ料理を食べることで、入所者の方と同じ思いで食生活が出来ている。入所者の方々には、出来る範囲で食材の下ごしらえや、調理、配膳、片づけなど行ってもらっている。	○ もう少し、入所者の方に参加してもら回数が増えるように計画したい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やたばこをたしなむ方は今はいないが、たばこを吸う方がおられた時は、施設で管理し、吸う本数や場所を決めて楽しんで頂いていた。	○ 体調悪化や誤嚥を心配するあまり、ご本人の嗜好を阻害し、自由に楽しんで頂くことに不足があるのではないかという懸念もある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表によりパターン、量を把握し、可能な限りおむつを使用しないように、失禁パンツとリハビリパンツをこまめに交換したりしている。また、失敗して自尊心を損なわないようにその方に合わせてトイレ誘導している。	○	各居室にトイレが付いていることで、他者に気兼ねなくプライバシーが守られて排泄出来るのではないかとと思われる。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応の入浴日を決めてはあるが、その日のバイタルチェックの結果や病状により、入浴日や時間と変更したりしつつ入浴して頂いている。出来ない部分のみ介助して、その人のペースでゆっくり入浴出来るように支援している。	○	毎日の生活の中で、ある程度はスケジュールが決まっているが、それにとらわれず、ご本人のその日の状態に合わせた介護を行いたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣と転倒防止の面から、ベッドで休まれる方や畳に布団を敷いて休まれる方などお一人お一人に合わせて、照明にしても安眠できる明るさにするように配慮している。	○	その日の心身の状況に合わせて変更していることで、骨折事故などが起きていないと思われる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご家族の情報や、ご本人との話し合いの中から生活歴や好みを知って、果たせる役割を行って頂くことで、楽しみや生きがいとなって生活出来るように支援している。	○	昔好きだったことや興味があったことを知り得ても、症状悪化により意欲をまったくというほど無くされている方もあるので、その方にどうやって意欲を持って生活して頂けるかが課題である。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭や買い物など全く関心がない方が殆どであるが、金銭管理がどうにか出来る方についてはご家族の了解の上、少額を持って頂いて、必要な下着や小物など買いにスタッフと出かけたりされている。	○	ご本人に金銭を所持して頂いていると、物盗られ妄想が出て困ったことがあるので、ご家族と相談しつつ行っていきます。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	国道に面しているため門だけは閉めて、ベランダや園庭へは自由に出て日光浴や散歩が出来るようにしている。また、機会あるごとにスタッフとドライブに出かけたり、家族との外出も自由である。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入所者の方々と話し合いの中で行きたい所を聞いたり、家族会の方々と話し合っただけで出かける機会を作ったりしている。出かけて、忘年会を入所者、家族会、スタッフの26人でしたり、近々バラ園を見に行く計画を立てている。	○	家族会より、外出の計画を立てた場合は声をかけてくれれば出来る時は参加するという申し出あり。協力して行って行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会に来れないような遠方の家族からの安否確認の電話などは殆ど取り次いで話をしてもらっている。送り物が届いたら必ずお礼の電話をかけてご本人に話してもらっている、		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問して頂けるような雰囲気づくりに配慮している。遠方より来られた家族の方には泊まって頂いたり、ゆっくり話せるような雰囲気づくりを心掛けている。	○	夜間早朝以外は不審者からの危険を守るため、家族やよく来てくださる方には説明を行い避けてもらっているが、電話連絡してもらえば可としている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については研修を受けたり、スタッフ間でどういうことが身体拘束であるかを話し合い、他に代替え方法が見出せず危険な身体状況の場合のみ最低限の拘束しかしないように心掛け、ご家族に説明して同意書を頂いた上で行っているが、施設としては身体拘束をしないケアを目指している。	○	気づかずに拘束しているようなことはないか、常に検討するように取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量の多い国道3号に面しているので、門のみは度々施錠するが、玄関などはいつも自由に出入りできるようにしている。	○	施設外へはスタッフが同行し、散歩を楽しんでもらえるようにしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	施設内部が全体を見渡せる配置になっているので、入所者の行動が把握しやすく見守りがほぼ完全にできているので、現在までのところ骨折事故などは起きていない。	○	入所者の方々に対して手を出しすぎないようにしながら、スタッフ間は声を掛け合って、見守りは必ず行うようにしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	調理はガスでなく電磁調理器になっている。包丁類は使用しないときは目につかない所に収納し、薬品は事務所の薬品庫に収納しているが、アンメルツなど自分で塗れる方は自室に持たせている。出来る方には、目薬は挿す時に渡して挿して頂いている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入所者の方一人一人の身体状況、行動パターンについて情報を共有し、危険な行動が予測される場合は特にその都度対応策を講じている。	○	ベッドからの転倒が心配な方に対しては、床に布団を敷き休んで頂くなど早めの対策を取るよう心掛けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員も慌てることのないように、蘇生法を大きく書き張り出している。消防署の協力を得て救急蘇生法、応急手当の講習を受けている。食事中的誤嚥、夜間の急変、事故の対応について話し合いをしている。	○	スタッフ間に毎日の情報が共有できるように、申し送りを小まめに行っているが、マニュアルを作成し周知徹底を図りたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署による消火訓練指導や、施設独自の避難訓練を行う際にも協力頂ける方にも参加をいってもらい、避難場所の確保もしている。地域の自治会にも加入し、校区の消防団の協力も頂けるように相談している。	○	避難訓練のやり方についても、もう少し工夫が必要と思われる面もあり、今後行う場合は検討したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	症状については、面会の都度や電話連絡にて報告し、現在起こりうるリスクについても説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝行っているバイタルチェックや情報の共有により、スタッフは普段の症状を把握しているため、少しでも症状に変化がある場合は申し送り記録により、バイタルチェックも何回か行い早期発見に努め、管理者に報告し医療受診などを行っている。	○	これまで早目の対応を心掛けてきたせいか、幸いにも大事に至らなかったことが何回かある。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルはスタッフがいつでも手に取れる所にあり、薬の管理は看護師が行いチェックした上で、その日の担当スタッフが再度チェックしている。用法や、用量、処方の変更になった場合は申し送りノートにも記入した上で口頭でも伝えられている。服薬時再度確認した上で、その都度ご本人に手渡したり、口に入れて飲んで頂いている。	○	再三チェックする際に、間違いに気づいたことが2～3度あり、チェックの必要性を感じる。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを行い記録している。便秘にならないよう水分補給や食材も考慮している。散歩やリハビリ体操など身体を動かすよう勧めているが、どうしても外に出たがらない人の場合はお茶を外で飲んだりする機会を作ったり、屋内で動いてもらうように働きかけている。	○	食事や水分摂取の工夫はどうか出来ているが、意欲の無い方を外に出て頂く工夫を検討していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食前食後にお茶を充分飲んでもらうように勧め、また、食後のうがいや夕食後のお茶による口腔ケア、義歯の洗浄や消毒、食後取り外す方など、その方に合った支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立や栄養が偏らないように、栄養士が基本の献立を立てているが、食材やその日の状況によって若干の変更はある。食べる量や飲み込む力量に応じて、おかゆや刻み食にしたり量を加減したり、お茶の温度にしてもその人に合わせている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	3度の食事と2度のお茶の時間の前には必ず石鹸での手洗いを行っている。手拭きのタオルも各々の分で行い、毎日交換している。来客には手指の消毒をお願いしていて、入所者、スタッフ共に毎年早い時期にインフルエンザの予防注射を受けている。	○	インフルエンザの予防注射を受けていることと、手洗いとお茶でのうがいが効をそうしているのか、風邪や感染症が蔓延したことは無いので、今後も継続していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器、鍋類は乾燥器や日光消毒している。まな板は肉、野菜用は区別し、包丁類と共にジア塩素消毒を行なっている。冷蔵庫や冷凍庫の食材はチェックし、早目に使うよう心掛けている。	○	幸いなことに食中毒などは起こしていないが、夏場に向かってより一層衛生管理に力を入れていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は転倒の心配なく安心して出入りできるように、余分な物は置かず開放しているが、履物の脱ぎぎの際の転倒予防と休息の場として長椅子を置いている。	○	もう少し花を育てたりして、憩いの場を作りたい
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体が南向きで明るく、ゆったりした居心地の良い空間作りに配慮しているので自室にいる人が少なく、自ずとリビングに集まって一日を過ごされている。また、外に面しているので圧迫感が無く、季節や天候など日々の変化が感じられるようになっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの座る位置を工夫したり、施設内のあちこちに独りになれたり、気の合った人同士おしゃべりできるような場所がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所当初、なじみの家具などの持ち込みをお願いしているが、殆どの方が自室で過ごさず、リビングで過ごされるためか家具の持ち込み少ないが、それなりに居心地良く不自由ない様子で過ごされている。	○	居室にそれ程個性がないので、転倒には注意しつつ、もう少し安らぎの空間づくりをしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングが南向きになっていて、日当たり、風通しも良いが、温度調節と各居室も含めての空気の入替えなど小まめに行っている。入所者の方々にも寒暖の状況を尋ねて調整している。	○	毎日の生活が快適であるように、今後も工夫していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーで、滑りにくい床材を使用している。また、共有部分のリビング、トイレ、浴室などに手すりを設置し、ベランダにも椅子を設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	それぞれの居室には家族会の方が書いて下さった似顔絵を飾ったり、目印のリボンを付けたりしている。部屋替えや、リビングでの座る位置なども皆さんと相談の上行って混乱を招かないよう、また、心身の状況に合わせて部屋も決めて快適に生活して頂けるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダや玄関、洗面所近くにも椅子を配置し、安らぎの場となるように配慮している。施設内の畑や、地域の方に借りている畑に季節の野菜や花を入所者の方々と共に育てている。出来た物を収穫して食卓に乗せれば自分たちの作った物ということで喜んで食べておられる。	○	日常見える所に花や実の生る木を色々植えたりしようと計画はあるが、まだ具体化していないところである。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

明るい、開かれた空間のゆったりした雰囲気の中で、スタッフと共に穏やかに毎日を過ごして頂けるようにお手伝いします。利用者の安全を第一に、転倒防止や日々の体調の変化も見逃さず、体調悪化にも早期対応して事故の無い安心して暮らせる生活を目指します。